

環境・社会リスクを管理する取組み

リスクガバナンス向上を目指して

サステナブル・ファイナンスの実践にあたり、取り組むべき環境・社会課題の拡がりや重要性はますます高まっています。投融資先やプロジェクト関連の取引に対する投融資の判断に、環境・社会リスクの評価・検討が欠かせなくなります。当金庫では、投融資フロントにおける環境・社会リスクの評価・判断に加え、リスク管理部門の牽制や経営による意思決定が必要な場合のエスカレーションの仕組みを確立すべく、環境・社会リスク管理(ESRM)態勢の構築を進めています。今後、ESRM運用の高度化に段階的に取り組み、統合的リスク管理との一体的な運用を目指します。

担当者の声

統合リスク管理部 部長代理
増岡 宏和

多くの関係部署の連携により新たに始動したESRM態勢は、今後、当金庫が環境・社会課題を取り巻く環境変化に対応していく上で重要な役割を果たすと考えています。同時に、TCFD提言への対応として、気候変動に伴う移行リスクにかかるシナリオ分析に着手しています。これらの取組みの拡充、高度化を通じて、経営の羅針盤となるような情報発信につなげていきたいと思ひます。サステナビリティへの取組みは、将来世代に負担を先送りせず、同時に私たちのニーズも満たすために必要な課題解決に取り組むことと思ひます。今後も業務を通じて、世界と日本の地域、農林水産業の持続可能な発展に貢献していければと思ひます。



農林中央金庫のESRMの具体的な取組み

当金庫は、2019年11月に、環境・社会課題解決に向けた基本方針として、「環境方針」・「人権方針」を制定しました。これらの方針に基づき、環境・社会に対して重大な負の影響を与える可能性が高いと認識されるテーマおよびセクターに関しては、プライオリティーに応じ適切なリスク管理を行っています。

●投融資セクター方針

当金庫では、環境・社会に多大な影響を与える可能性が高いセクターへの取引を禁止・制限しています。制限セクターに対しては、投融資検討時に環境・社会課題への対応、配慮の状況を確認し、当金庫経営レベルでの協議を経て、投融資先に対するファイナンスの可否の判断を行います。現在、下記のセクターに対して投融資に際しての方針を設定しており、今後も対象セクターの充実に取り組みます。

投融資方針を設定している対象セクター

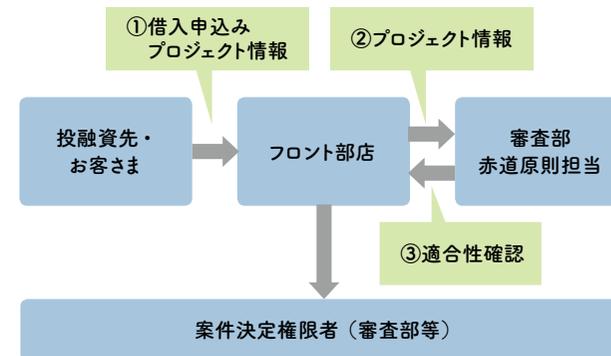
- ・クラスター弾
- ・パーム油農園開発・搾油
- ・石炭火力発電所
- ・森林伐採

●リスク管理におけるESGインテグレーション

リスク管理部門は、当金庫の投融資における環境・社会リスク評価実施によるリスク管理機能に加え、フロント部門が取り組むESGインテグレーションを第2線の立場で支える役割を担います。

●赤道原則

赤道原則への適合性を確認し、誓約条項の遵守状況を確認(モニタリング)します。



●環境・社会インシデント対応

投融資先における環境・社会インシデント情報^{*1}のモニタリングを通じて、環境・社会リスクに起因する評判リスク・信用リスク回避のための対応を行います。投融資セクター方針の対象となる投融資先を対象とし、定期的なモニタリングを行います。

※1 環境・社会に深刻な影響が懸念される企業行動・事業活動や関連する事象

